

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2570101374
法人名	医療法人 誠仁会
事業所名	ぐるーぷほーむ 木一
訪問調査日	平成 19 年 11 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 15 日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570101374
法人名	医療法人 誠仁会
事業所名	ぐるーぷほーむ 木一
所在地	大津市里5丁目2-60 (電話) 077-546-3074

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成19年12月15日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 12.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋建
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 5 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉徳医院 青木医院 高山歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯に共存する住宅街の一角に立地し、医療法人が運営するグループホームである。同一敷地内に医院、薬局、在宅介護支援、デイサービス、ショートステイが併設されている。向かい側のショートステイの建物との間には中庭があり、散策や憩いの場になっている。グループホーム内は居室や共有スペースも広くゆったり配置され、省令基準を超える住環境及び人的環境を整え、医療連携を含む併設施設のインフラも充分活用した質の高いサービスの提供を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査では理念の明示、契約書内容、食事、ホーム便りの発刊、地域との関連等数項目の改善指摘がされている。その後職員会議等にも下ろされ検討を加え、改善の取り組みがされている。残された課題である地域や市との連携の強化についても改善に向けた具体的な行動内容が提起されており、早期に行動を起こすことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議に下ろし検討している。前回評価での未達指摘事項や要改善課題は認識され、取り組むべき課題として行動計画に掲げられている。早期に具体的取り組みに着手されることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>概ね2ヶ月に1度の頻度で実施されている。出席者は併設施設の代表者、家族、時に民生委員であり、地域の代表や知見者の参加はない。要請はしているが、開催日の関係もあるのか、市の担当者の出席の実績もない。地域密着型サービスの主旨を体し、早急な改善対応が望まれる。テーマは日常のケアや行事の計画や運営計画及び運営推進会議の進め方等多岐に亘っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱も設置されている。広い駐車場や家族の過ごし良いスペースの確保など訪問しやすい環境にもあり、家族の来訪は頻繁である。その際に意見交換されるケースが多い。家族連絡票に記録し、日常的に検討もされている。運営推進会議にも交代で出席を要請している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民生委員やボランティアとの交流はある。神社の祭礼や学区の夏祭りに参加したり、地域から通うデイサービスやショートステイの利用者との交流もある。事業所から地域に向けた活動はこれから具体化されようとする所である。併設施設を含む事業体として、地域還元のための潜在力は大きい。それを活かした双方向の連携取り組みが求められる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「特別なニーズと願望に応えるよう最大努力する」が基本理念であり、サブテーマを運営方針として併記し、その中に「生涯、社会性を失うことなく豊かな生活環境と人間関係の構築を支援する」と明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所と玄関ロビーに掲示されている。研修や定例会議の中でも意識付けがされており、職員も利用者の希望や思いに応えるべく日常的に強く意識している。	○	「社会性を失うことなく豊かな生活」を実現するために、地域と密接に連携することが必要不可欠であることを、十分理解し、具体的な活動に活かして欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は住民票のある個人の加入が基本であり、会員は一部の利用者に限られている。民生委員の来訪、ボランティアの交流はある。祭礼や夏祭り、運動会等への参加もしている。しかし、事業所と自治会や地域と支え合うという関係には至っていない。	○	家族の人達も地域との積極的な交流を必ずしも望んでいないという事情もあるようである。利用者が地域で暮らしていく、溶け込める環境に恵まれている事でもあり、先ず事業所が地域で必要とされる役割や活動を担っていく努力をしながら、あるべき姿へ向けての基盤づくりが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価報告書と今回の自己評価票は玄関ロビーに閲覧用に置かれている。検討は職員の参加の下に行われている。職員もその意義については理解しており、外部との大きな関係課題を除き、改善取り組みもすすめられている。		前回指摘の中に、契約書の条項に利用者の権利・義務の項を別に設け、分かりやすくすべきとあった。機会を捉えて整理改訂する事が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催頻度は概ね2ヶ月に1回、テーマは運営計画や課題、日常のサービスの内容や問題点、家族会、基本理念や運営推進会議の主旨など多岐に亘っている。しかし出席者が併設施設の関係者、家族、職員等内部関係者中心である。時に民生委員が参加するが自治会や地域の代表、市の担当者などの出席はない。	○	地域に貢献し、共存するグループホームでありたいという課題意識はあるが、現状は地域や行政との連携がとれていない。早急に両方の連携を持ち、参加を求め運営推進会議の体制を整えることが重要である。その後さらに実を上げる充実化を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の報告等はしているものの密接な連携の機会を持っていない。	○	運営推進会議への出席の要請や調整の場を通じて連携の形を構築し、情報の交換等の機会を得、行政を含むチームとしての体制強化が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は非常に多く、面談での連絡や報告の機会が多い。日常の様子や行事の写真等の掲示もしてある。医療(受診)報告、金銭立替報告等、毎月の報告に加え、近々「木一通信」も発刊される予定である。		家族会合の開催は3回/年開催されている。今後も継続し、さらに充実化が期待される。「木一通信」も家族や運営推進委員会等の意見を取り入れながら、内容の充実を期すことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱も設置しており、日常的に家族が訪問した時の対話の内容も家族連絡票に記録され、日誌にも記録されている。運営推進会議にも交代で出席を要請している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年異動はなく、定着している。A・Bユニット間の異動はあるが、ワンフロアで利用者も自由に行き来しており、馴染み合っている。不意の交代なども精神的動揺や不安はない。		今後、異動や退職が無いとは言えないので、万一そのような場合に、利用者へ与えるダメージを最小限にするための方策を考えておいて欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的にレベルに応じて外部研修の受講をさせ、その報告発表も行っている。また、独自で月2回の内部研修会があり、外部講師や相互に自己研修発表等を実施している。		職員の個人別の育成目標を持ち、実務訓練や研修もそれに基づくものであることが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や行事には参加している。研修会等が多い。現状ではサービスの質を向上させるような情報交換の場には必ずしもなっていない。地域の同業者との交流や連携がサービスの質の向上や職員の育成に必要であり、また役立つ事も充分認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅や併設のショートステイとから入所の利用者は1ヶ月程度かけて慣れさせる。病院から直接入所や他の施設からの転入等の例もあり一律にはいかないが、家族と相談してできるだけ馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が理念を意識している場面である。利用者の表情やしぐさで喜怒哀楽を感じ取っている。寂しそうとか、落ち込んでいればソツと2人きりの場に移りやさしく話しかけたり対処する。一方では急がしそうにしていると「ちょっとここ来て座って休み」と声を逆にかけてくれたりする。おやつ作りや煮物などを教えられたり、暮らしのパートナーとしての姿勢が見える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は自分から言ってくれる人が多い。朝の体操の時などに少しおしゃべりする、そんな時の食べ物や楽しみ事など些細な言葉から思いの把握に努めている。職員は利用者の意向を引き出すことが自らの楽しみと意識している。その事実を職員間で意見交換し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との聞き取りによる趣味や生活歴、症状、入所前に病院や施設にいた利用者についてはそのケアマネージャーやケースワーカーに聞き取りをする。何よりも本人の観察が重要である。併設医院の意見や職員の意見も入れて作成する。家族は同意印を押している。職員は閲覧し内容を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは職員の意見、主治医・ナースの助言、家族の意見等をいれ、定期的見直しと毎月のカンファレンスにより行っている。状態が急変した時はその都度見直しを行っている。職員は内容を共有し、日常的にフォローしている。ナースが毎日の日誌を確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人が運営母体であり、医療連携加算契約書が交わされている。併設のショートステイやデイサービスの機能を活用してリハビリや音楽療法等グループの総合力を活かした支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されており、緊急時にも不安なく対応できる。他の病院でも診療を受けており、受診の報告書は毎月送付されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族と個別に話し合い、納得の上で(看取り)終末期医療の契約書が交わされている。最近も看取りの事例があった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常から特に厳しく躰けられており、言葉使いやトーンに注意し、排泄の誘導時など他の人への配慮など気配りしている。来訪者には閉められるスペースを使うとか配慮されている。研修のテーマとしても取り上げられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の基本的な一日の流れはあるがその人それぞれのペースを尊重している。起床時間もマチマチ、食事時間も幅を持っている。利用者は居室の他にも共用のリビング、娯楽室、和室、ダイニング等自由にくつろいだり、中庭を散策したりそれぞれのペースで過ごしている。		利用者は服装もキチンとしており、穏やかに安らいでいるように見える。職員も利用者の笑顔や安らぎの表情、「ありがとう」の言葉にやりがいを感じている。今後もこの安らぎ感が続くことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設とのセンター厨房で調理され、専用のワゴンで温かいまま搬送されて来る。メニューも献立表はあるが好みにより個別に配慮され、異なる食材・調理で供されている人もいる。職員も一緒に、話しながらそれぞれのペースで食べている。朝食も和・洋好みに対応している。おやつ作りは利用者も手つたう機会もある。		多くの女性の入居者にとって料理は得意分野であり、総合的な能力を発揮できる好機である。利用者から料理を教えてもらう意味もあるので、おやつだけでなく時には料理も一緒に作る場も考えて欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は自由な時間に大・小の浴室でできるようにしている。利用者の体調を考慮し、介助や支援を行っている。殆どの人が毎日入浴している。		就寝前の入浴は、現状は2～3人しか対応できていないが、本来もっと多くの人が夕食後から就寝前に入浴したいのではないかと、独自の取り組み課題に挙げている。より質の高いサービスを目指した計画として期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、手芸やカラオケ等の趣味や併設のデイサービス等との交流等により楽しみ・気晴らし支援をしている。クリスマスや夏祭り、花見や紅葉狩り等季節のイベントも工夫されて実施されている。また洗濯干しや取り入れ、小鳥や金魚の餌やり等役割分担も多くはないがされている。		年に一回、家族も同伴で一泊旅行を実施している。医師・ナースも同行し、職員も現地で日常と同じケア、支援をするが全員の大きな楽しみとなっている。今後も継続を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は利用者にとって地域に出て挨拶や言葉を交わす、社会性を保つ大事な場面であり散歩や通院、買い物等、希望によってはドライブや美容院送迎の対応等も含め積極的に支援している。車椅子の利用者も外出されるよう支援している。		近くにクリスマスの時期になるとイルミネーションを競って飾る有名な住宅街があり、わざわざドライブして見学に行ったりしている。今後もさらに積極的な継続が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束はしない、鍵は絶対にかけない。センサーもつけていない。併設施設や建物の配置、レイアウト上の配慮、来訪者の多さも影響しているのか、現状は職員の気配りのみで問題は発生していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年消防署の訓練を実施している。現状夜間を想定した全員の避難時間は15分である。消防署との緊急直通電話が設置されている。併設施設との協力、支援体制もある。消化器、警報器等も設置されている。マニュアルも整備され勉強会も実施されている。		災害発生時に備えた備品等(水、おむつ類)は整えられていない。その準備や点検をする事により、さらなる防災意識の向上が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往症、好き嫌い、運動量等を配慮して個別に献立や調理方法を適時対応している。管理栄養士によるチェックもされており、かかりつけ医の処方により栄養補助食品等の供与も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3年前の開設に伴い、新規に企画・設計された建物で、共用空間特にリビング、娯楽室、独立した和室、キッチンを含んでダイニングコーナーは2カ所とゆったりとしたスペースになっている。空調や防音、採光、トイレの配置等も配慮され落ち着いた空間となっている。所々に敷地内の草花がさりげなく生けてあり、季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は6畳の広さで、1間の押し入れ収納と大小2つの窓(大の掃き出し窓にはデッキのベランダ付き)が基本でゆとりがある。各室には利用者馴染みの家具・調度が置いてある。共用スペースを含んで4室ずつ配置、重症者のためのトイレ付きの居室もある。ゆったりとして居心地良く暮らしやすい設計になっている。		